

平成30年度 胃がん内視鏡検診成績

新潟市医師会胃がん検診検討委員会

はじめに

平成30年度の新潟市の対策型胃がん検診のうち、内視鏡による検診の成績を報告する。検診自体は令和元年3月末で終了しているが、治療も含めた最終結果の集積のため、例年報告を一年後としていた。報告が遅くなったことをお詫び申し上げます。

平成15年に胃内視鏡検診が開始されて以来、今回の集計は16年目の検診報告となる。平成15年度の受診者は8,122例であったが、平成30年度には43,499例まで増加し、受診者は5.4倍と

なっている。また、微減を続けている直接X線検診は、平成29年度より432名減少し11,890名であった。集団検診の9,214名を加えると、合計では64,603名となり、前年度より1,599名減少した。新潟市の胃がん検診カバー率は、平成29年度より0.5%低い21.5%であった。

1. 受診件数とダブルチェック率（表1、2）

表1に施設検診の受診者数の推移とその内訳を示した。内視鏡検診受診者は平成29年度より598名減少し43,499名であった。また、施設X

表1 年度別胃がん施設検診数

検査術式		平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
内視鏡検査	委員会ダブルチェック	6,326	9,153	13,087	17,136	20,940	24,608	27,038	29,083
	施設内ダブルチェック	1,796	2,572	4,561	6,751	7,817	8,275	8,345	8,471
	計	8,122	11,725	17,648	23,887	28,757	32,883	35,383	37,554
X線直接撮影		28.8%	38.1%	47.0%	55.3%	60.7%	64.9%	67.1%	69.2%
		20,059	19,025	19,916	19,335	18,601	17,808	17,362	16,704
合計		71.2%	61.9%	53.0%	44.7%	39.3%	35.1%	32.9%	30.8%
		28,181	30,750	37,564	43,222	47,358	50,691	52,745	54,258

検査術式		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
内視鏡検査	委員会ダブルチェック	*30,071	*31,882	*33,360	*34,169	*33,220	*34,382	*33,640	*33,347
	施設内ダブルチェック	8,573	9,424	9,914	10,112	10,361	10,707	10,457	10,152
	計	38,644	41,306	43,274	44,281	43,581	45,089	44,097	43,499
X線直接撮影		71.3%	73.7%	76.0%	76.8%	76.3%	77.7%	78.2%	78.5%
		15,525	14,744	13,687	13,386	13,518	12,920	12,322	11,890
合計		28.7%	26.3%	24.0%	23.2%	23.7%	22.3%	21.8%	21.5%
		54,169	56,050	56,961	57,667	57,099	58,009	56,419	55,389

読影不能例 *

14 19 18 20 7 8 3 24

表2 年度別検診機関数

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
読影委員会チェック機関	74	79	111	109	113	115	119	123	125	125	129	129	125	126	124	122
施設内チェック機関	9	10	13	17	16	15	14	14	13	14	14	14	15	15	16	15
合計	83	89	124	126	129	130	133	137	138	139	143	143	140	141	140	137

表4 年度別発見がん数（全がん＝胃がん＋その他の悪性腫瘍）

検査術式	発見がん	平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度	
		検査件数	発見がん														
内視鏡検査	胃がん	8,122	65 (0.80%)	11,725	102 (0.87%)	17,648	132 (0.75%)	23,887	254 (1.06%)	28,757	290 (1.01%)	32,883	296 (0.90%)	35,383	325 (0.92%)	37,554	309 (0.82%)
	全がん		74 (0.91%)		120 (1.02%)		160 (0.91%)		303 (1.27%)		339 (1.18%)		353 (1.07%)		373 (1.05%)		374 (1.00%)
X線直接撮影	胃がん	20,059	62 (0.31%)	19,025	61 (0.32%)	19,916	78 (0.39%)	19,335	64 (0.33%)	18,601	67 (0.36%)	17,808	49 (0.28%)	17,362	54 (0.31%)	16,704	42 (0.25%)
	全がん		66 (0.33%)		64 (0.34%)		84 (0.42%)		78 (0.40%)		74 (0.40%)		57 (0.32%)		62 (0.36%)		51 (0.31%)
合計	胃がん	28,181	127 (0.45%)	30,750	163 (0.53%)	37,564	210 (0.56%)	43,222	318 (0.74%)	47,358	357 (0.75%)	50,691	345 (0.68%)	52,745	379 (0.72%)	54,258	351 (0.65%)
	全がん		140 (0.50%)		184 (0.60%)		244 (0.65%)		381 (0.88%)		413 (0.87%)		410 (0.81%)		435 (0.82%)		425 (0.78%)

検査術式	発見がん	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		検査件数	発見がん														
内視鏡検査	胃がん	38,644	313 (0.81%)	41,306	338 (0.82%)	43,274	326 (0.75%)	44,281	330 (0.75%)	43,581	339 (0.78%)	45,089	306 (0.68%)	44,097	290 (0.66%)	43,499	315 (0.72%)
	全がん		381 (0.99%)		391 (0.95%)		403 (0.93%)		411 (0.93%)		416 (0.95%)		377 (0.84%)		363 (0.82%)		379 (0.87%)
X線直接撮影	胃がん	15,525	51 (0.33%)	14,744	43 (0.29%)	13,687	42 (0.31%)	13,386	33 (0.25%)	13,518	48 (0.36%)	12,920	30 (0.23%)	12,322	28 (0.23%)	11,890	35 (0.29%)
	全がん		59 (0.38%)		50 (0.34%)		46 (0.34%)		40 (0.30%)		59 (0.44%)		34 (0.26%)		36 (0.29%)		38 (0.32%)
合計	胃がん	54,169	364 (0.67%)	56,050	381 (0.68%)	56,961	368 (0.65%)	57,667	363 (0.63%)	57,099	387 (0.68%)	58,009	336 (0.58%)	56,419	318 (0.56%)	55,389	350 (0.63%)
	全がん		440 (0.81%)		441 (0.79%)		449 (0.79%)		451 (0.78%)		475 (0.83%)		411 (0.71%)		399 (0.71%)		417 (0.75%)

である（生検での過剰診断の可能性が高い例は除いている）。これらの症例は、生検でがん細胞が全部脱落してしまったか、あるいは小さくなり過ぎて治療時発見困難となったかのいずれかと考えられる。そのため、主治医にはその後の慎重な経過観察をお願いしたい。

さらに内視鏡検診では食道がんが45例、0.10%（胃がんに対して14.2%）と高い発見率を示している。早期食道がん率は80.0%、内視鏡切除率は21例58.3%であった。

その他の悪性疾患としては、MALTリンパ

腫、GIST、十二指腸がんなどが発見されている。

表4には内視鏡検診の始まった平成15年度からの胃がん及びその他の悪性腫瘍を含めたがん全体の発見率の推移を示した。

内視鏡検診の発見胃がんは315名、発見率は0.72%と高レベルの検診を維持していると考えられる。先生方のご努力に感謝したい。

3. ダブルチェックの効果（表5、6）

表5に読影委員会での読影結果を示した。検

表5 読影基準別発見がん

読影基準	件数 A	率 A/総数	発見 胃 が ん						胃がん以外の悪性腫瘍		計	
			総数 B	率 B/A	確定 胃 が ん				総数 C	率 C/A	総数 D	率 D/A
					進行	早期	ひとかき	深達度不明				
1	18,524	55.5	1	0.01		1				1	0.01	
2	786	2.4										
3	13,116	39.3	205	1.56	39	154	3	9	42	0.32	247	1.88
4	113	0.3	3	2.65		3			1	0.88	4	3.54
5	222	0.7	5	2.25		5					5	2.25
6	562	1.7	5	0.89		5			2	0.36	7	1.25
読影不能	24	0.1	1	4.17		1					1	4.17
計	33,347		220	0.66	39	169	3	9	45	0.13	265	0.79

- 【読影基準】
1. 検診医と読影医ともに「異常なし」
 2. 検診医「有所見」、読影医「異常なし」
 3. 検診医と読影医ともに「有所見（同一診断）」
 4. 検診医「有所見」、読影医同部位の「別診断」
 5. 検診医「有所見」、読影医別部位の「別所見」
 6. 検診医「異常なし」、読影医「有所見」

表6 施設内チェックと委員会チェックとの比較（胃がん+他のがん）

1

がん全体	検査件数	施行率 (%)	発見がん	発見率 (%)
読影委員会チェック	33,323	76.6	264	0.79
施設内チェック	10,152	23.4	114	1.12
計	43,475	100	378	0.87

2

胃がん	検査件数	施行率 (%)	発見がん	発見率 (%)
読影委員会チェック	33,323	76.6	219	0.66
施設内チェック	10,152	23.4	95	0.94
計	43,475	100	314	0.72

3

早期胃がん	検査件数	施行率 (%)	発見がん	発見率 (%)
読影委員会チェック	33,323	76.6	168	0.50
施設内チェック	10,152	23.4	85	0.84
計	43,475	100	253	0.58

4

早期胃がん（含ひとかき）	検査件数	施行率 (%)	発見がん	発見率 (%)
読影委員会チェック	33,323	76.6	171	0.51
施設内チェック	10,152	23.4	86	0.85
計	43,475	100	257	0.59

※読影不能24例を含まない

診施行時の診断とダブルチェック時の診断の一致（読影基準1と3）は、読影可能症例の33,323例中31,640例、94.9%であった。

そのうち「異常なし」の一致が55.5%で、「有所見」の一致が39.3%であった。562例、1.7%は検診医の読影「異常なし」に対して新たな所見の追加がされた症例であり、そのうち5例の早期がんが発見された。

表6は自施設でダブルチェックが可能な15施設と、委員会でのダブルチェック施設122施設とのがん発見率を比較した。両者で明らかな差が見られるが、年々差は縮まっている。

おわりに

平成30年度の検診結果について述べたが、なるべく早く令和元年度の成績をまとめ、ご報告したい。

また令和元年度から2年に1回の検診となったので、検診数が減ったのは言うまでもないが、新型コロナウイルス感染症が気になり受診を控えている住民も多いと思われる。『がん検診の早期発見・早期治療の重要性』はいささかも変わりがない。確実に感染防護策を実施して検診を行っていただき、住民にも検診受診の重要性を啓蒙していくようお願いしたい。